

# IV

## 自主防災組織の果たした役割

観測史上最大の大地震から復興に向けて前進を続ける栗原市。そこには、自主防災組織の大きな力が欠かせませんでした。



▲自主防災組織により運営された地域避難所の様子(志波姫宮中)



▲いざという時に備えて備蓄用物資を交付しました

9月1日に市内で開催された宮城県総合防災訓練でも、市内全自主防災組織が訓練に参加し、地域防災力の向上が図られました。

最大震度7を記録した栗原市で、地震による死者が1人も発生しなかった(のちに災害関連死1人を認定)ことは、自主防災組織の日常の活動と訓練のたまものと考えられます。

市内全域で停電や断水など、ライフラインに甚大な被害を与えた東日本大震災。各自主防災組織は、自助・共助の精神のもとに、各行政区で自主避難所の開設や運営を行い、日ごろの活動と訓練の成果を発揮して、炊き出しなどにより高齢者を始め災害弱者への支援を行いました。

今回のこうした活動実体に対応するため、市では、これまでの災害物資の一括保管・配布方式から、あらかじめ自主防災組織に配布し保管していただく、「地域分割保管方式」により、一部シフト替えを行うことにより、自主防災組織が迅速に対応することが可能となります。

災害による緊急時には、初期対応が生命を左右すると言われています。地域に密着す

る、自主防災組織の強化がますます重要となります。今後、自主防災組織の活動に期待しています。

### ■自主防災組織に対する災害備品の交付

市では、自主防災組織の活動を支援し、今後発生する災害に備えるため、市内すべての自主防災組織に災害備品の引き渡しを行いました。

平成23年8月には、災害備蓄用物資(保存用食料や毛布など)を交付しました。この災害備蓄用物資の交付は、平成20年岩手・宮城内陸地震の被災段階から計画していたものです。

また、平成24年3月には、組織の活動を強化するため、防災装備品(発電機や投光器など)を交付しました。

この防災装備品は、災害に備えるとともに、地域の防災力を高めるため、防災訓練・炊き出し訓練などを通じて、有効に活用していただきたいと考えています。

# V

## 全国各地からの支援

未曾有の大震災の中、全国各地から差し伸べられた温かい支援の手が、私たちの生活を復旧・復興への大きな手助けとなりました。



▶ 応援職員による下水道施設の被害調査



▲全国から届いた支援物資



▲全国の自治体から給水車持参の応援

### 1 人的支援

栗原市支援のため、全国の自治体から、多くの職員の応援をいただきました。

### ■水道

本震災発生後、姉妹都市の東京都あきる野市から、いち早く給水支援をいただきました。また、日本水道協会を通じて、新潟県の長岡市と五泉市、小千谷市、大阪府(現・大阪広域水道企業団)、滋賀県の長浜市と甲賀市、野洲市からも給水車と職員の応援をいただき、仮設給水所などで給水活動に従事していただきました。

4月7日に発生した最大余震による断水でも、日本水道協会を通じて、新潟県の加茂市、愛知県の豊田市と岡崎市から給水車と職員の応援をいただき、給水活動に従事していただきました。

### ■下水道

下水道施設の被害状況調査のため、国土交通省下水道支援調整チームを通じ、大阪府の大阪市と神奈川県川崎市から職員の応援をいただき、

### 2 義援金・寄付金、支援物資

下水道施設災害調査に従事していただきました。

全国から、栗原を応援する心のもった義援金や寄付金、支援物資が届きました。(平成24年3月31日現在)

#### 「義援金」

28,503,459円  
個人 125件、企業 27件  
団体 53件、自治体など 12件

#### 「寄付金」

113,021,654円  
個人 28件、企業 39件  
団体 32件、自治体など 5件

#### 「支援物資」

個人 25件、企業 214件  
団体 138件、自治体など 5件

#### 〈主な支援物資〉

パン、おにぎり、レトルト食品などの食料。  
水やお茶などの飲料。  
毛布、衣服、ホッカイロ、シャンプー、リンス、ハンドソープなどの日用品。